抗議申し入れ書

大阪市の釜ヶ崎労働者に対する差別・"殺人"行政に対し、ここに強く抗議する。

大阪市は年間数百名の仲間が野垂れ死する実態に対し、何らの抜本的対策をたてようとしないばかりか、反対に警察の言いなりになって切り捨て、排除、管理を強め保安処分の片棒をかついでいる。

越年対策として始めた臨時宿泊所においては、二重の鉄条網で囲み、出入りに二重のチェックをし、機動隊を常駐させ、更に屈強な体育系学生を高額で雇って警備をさせて入所者を抑圧し、釜ヶ崎労働者に対する差別を煽っている。

前年度の臨時宿泊所の受付時には、そのアルバイト学生によって釜ヶ崎労働者への暴力事件が発生した。それは、大阪市の釜ヶ崎に対する姿勢を真似たものであり、かつ雇い主としての責任もある筈だが、今だに謝罪もなく、今年度も同じ大学より雇っている。昨日(1/3)も、我々が臨時宿泊所に面会に行った際にその学生アルバイトが前面に立ち「金もうけの為にやっているだけで、オマエらはキライだ」と我々の面会申し入れに対して一切取り合おうとしない暴挙を行なった。

また、臨時宿泊所には面会室も設置されておらず"何もない南港の寒い路上でしか面会をさせようとしかしない。1/2には、釜ヶ崎に残った多くの仲間がつきたてのモチを持って面会に行ったにもかかわらず、一切中に入れようとはせず、面会もさせようとはしなかった。そして、それに対する正当な抗議に対して機動隊を呼び我々を排除するという、警察主導の施策を露呈した。

以上のような越年対策の締め付け、差別・イヤがらせによって、今も尚多くの釜ヶ崎労働者が酷寒の中野宿を強いられ、命の危険にさらされている。この年末にも、判っているだけでも3名の仲間が野垂れ死んでいる。この責任を取れ。

大阪市は、天王寺公園有料化による釜ヶ崎労働者の排除、環境美化運動を名目にした排除をしつつ、民生・福祉行政としては何らの対策をしようとしていない。管理や警備排除の為には予算を使うが、民生・福祉行政には金を使おうとはしない。特に、釜ヶ崎差別に立脚した福祉施策の切捨て"殺人"行政に対し、ここに強く抗議する。

1991.1.4

第21回釜ヶ崎越冬斗争実行委員会
代表　山田 実

大阪市長殿

大阪市民生局長殿

日刊ごってぐ

第1号　89.12.25　第21回釜ヶ崎越冬斗争実行委　☎(632)4273　釜日労 発行

冬は隣から、同盟・結集・「陽当」差の仲間のいのちを

まもり抜こう！今日から越年越冬斗争を開始！

今年の越冬斗争を総括！

三度、釜ヶ崎に集まろう！

年頭「共闘交歓・決起の集い」と集会(外部)

年頭、まずは、共闘の交歓の集いを開いた。

今年は、共闘の交歓の集いを、共闘の集会と共に、共闘の集会と共に、共闘の集会と共に

越冬斗争を斗いぬこう！

〈12/25〉よる10じ～、医療センター下で
野営拠点を設営、フトンしき、
医療パトロールを開始。

（26～28は、よる8じ～フトンしき、
よる10じ～医療パトロール
あさ8じ半～医療相談（医療センター下））

〈26〉あさ10じ～、三角公園で
こどもモチつき大会

あさ10じ～、大阪港・全港湾で
モチ代支給日

よる7じ～9じ、市民館で、
大和中央病院糾弾集会

〈27〉あさ11じ～、大阪地裁801法廷で、
10月暴動・小池さん判決公判

〈28〉あさ8じ半、センターから
大和中央病院糾弾デモ

〈29・30〉あさ～、市更相で、
越年臨時宿泊所受付。（越冬闘も行います）

よる6じ～、三角公園で、
殺人行政・不当却下糾弾集会

〈29～1/3〉よる8じ、医療センター下から
人民パトロール（終了後、三角公園で炊き出し）⇒公園で野営
よる10じ～医療パトロール

〈31〉よる6じ～、三角公園で、
沖縄の歌とおどりの集い（沖日労の仲間がやってくれます。
（よる8じ以降の予定は、29・30と同じです。）

〈29～31〉あさ8じ半～、医療センター下で、
医療相談

〈1/1～3〉えっとうまつり
（1日）ひる1じ～よる7じ半、三角公園で、
のど自慢大会、バンド演奏、衣類放出
（2日）あさ10じ～、三角公園で、
団結モチつき大会
ひきつづきよる7じ半まで、
バンド演奏など。
（3日）あさ9じ、医療センター下から、
ソフトボール大会へ出発！
よる6じ～三角公園で、
映画会「5月夢の国、80年韓国・光州」
上映予定。
（よる8じ以降の予定は、29～31と同じ）
〔時間・予定の変更あり〕

〈1/4〉あさ7じ～、センターで集会
8じ、センター出発→三角
公園（8じ半）→市庁舎（淀屋橋）
対大阪市抗議デモ

〈1/4～10〉医療センター下で、
よる8じ～、フトンしき
〃10じ～、医療パトロール、
あさ8じ半～、医療相談

〈1/11〉
あさ5じ～、野営拠点撤収！
8じ半～、医療相談
越冬斗争・拠点活動は終了！

日刊 えっとう 90.12.26 第2号
第21回釜ヶ崎越冬斗争実行委
（ごんわ）632-4273
釜ヶ崎日雇労働組合 気付

第21回釜ヶ崎越冬闘争を開始！

きのう、突入決起集会を行い、（300名）

1990～91越冬をたたかいぬこう！

釜ヶ崎越冬斗争にあつまったみなさん！ いよいよ21回目の越冬斗争を、きのうの三角公園での突入集会をもって、開始した。

越冬斗争は、年末年始の仕事のなくなる、しかも寒さの厳しい時期、野たれ死にの危険にさらされる高齢・病弱・「障害」者などの仲間のいのちを、みんなの団結で守っていこうというものだ、と思う。

今元気にバリバリ働いている人でも、いったん怪我や交通事故で けがをしたり、あるいは病気になったり、又年をとって体力がおちていけば、いつアオカンを強いられ、野たれ死に の危険にさらされるか、わからない。

現に、行路病死が毎年数百人という現状でなお、越年臨時宿泊所を去年なみの「千三百人定員」にしめつけ、おまけに定員 れでも多くの仲間をアオカンに追いやろうという大阪市の殺人行政はかわらない。体が弱くなったというだけで野へ たれ死にしなければならない社会って何なのさと思う。

突入集会では、様々な支援・連帯団体からアピールが寄せられた。学者、被差別部落大衆、女性、病院の労働組合、学生など立場は様々だが、釜ヶ崎寄せ場の解放を自分自身の問題として考えて、日雇労働者と団結していこうという点では同じなのだった。様々な立場の人が日雇労働者の抱える問題を考えようとしているように、我々日雇労働者もそれぞれの立場の人たちの抱える問題を考えていきたいなと思った。

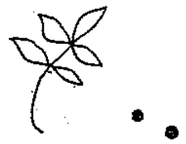
今日はよる7じ、市民館で 大和中央病院 抗議集会

新聞、テレビでも報道されましたが、12月13日、大和中央での死亡事件について大阪地裁に提訴を行いました。

28日には大和中央へデモを行います！今日の集会は大和中央の差別性をみんなで出しあう学習会でもあります。

今日から医療センター前で、8:30～12:00、医療相談を行います！（金の心配はいりません）
体の調子の悪い人はドンドンあつまろう！

今日あさ10じ～三角公園で こどももちつき大会



日刊えっとう 90.12.27 第3号
第21回釜ヶ崎越冬闘争実行委
（釜ヶ崎日雇労働組合 気付）
でんわ 632-4273

きのう、大和中央病院抗議集会開催。そしてあしたは大和中央へデモをかけるぞ！

センター出発 あさ9じ

誤診、差別医療による労働者「殺人」に抗議するぞ！

みなさん！

きのうよるワじ、西成市民館で大和中央病院抗議集会をおこなった。みんなもよく知っているように、大和中央病院は釜ヶ崎で救急をよぶとら介の4はここへはこばれてしまうというおなじみの病院だ。そして大和中央の医療は、日雇労働者をもうけの対象としてしかみない、差別的ななサンなものであり、今まで多くの仲間がムチャクチャな医療によって偏をうけ苦しんできた。その中で、誤診によって「殺された」労働者の事件がうかんできた。

去年4月23日、日雇労働者のMさん（遺族の希望により仮名）は胸痛のため大和中央へはこばれたが、「神経痛」と誤診され帰された。その結果、すでに心臓を悪くしていたMさんはますます病状を悪化させ、翌日再び大和中央にはこばれたが、今度は「結核」と誤診され、その日心臓を破裂させて亡くなったのだった。

この事件は今月15日大阪地裁に提訴し、裁判闘争を行なっていくことになっている。

きのうの集会では、この事件についての医師、Mさんの友人からの説明があり、同時に出席者から質問、意見がとびかい、熱じょう沸騰となった。「大中だけ抗議してもダメだ。どこの病院もワシらを人間扱いしてない」「いや、それでもまず大中へ抗議して、少しずつ医療をかえることだ」「外ではアオカンする人のためにフトンしきをしているのにこんな所で何を話そうとしてるんだ」「28日なんていわずに今この集会のままデモに行こう」「でも申請なしにデモしたらパクられちゃうよ」「それでもいいやんか」などなど。大和中央へのうらみ、怒りは深い。28日デモでもがんばろう！

12/26 医療相談のいちぶ

- 受診者 25人
  - 市更相 19人
    - 入院2人（1人は救急）
    - 入寮10人
    - 単独5人
    - 金銭1人
    - 面接拒否1人
  - 6人

市更相内で救急車をよびました（西成375）。たおれていて痛がる労働者に「病院に入れんかもしれない。」「行くんか、いかんのか。」救急隊はどんな人権感覚をもっているのか。また、いつから「医者」になったのか。相談者には、はじめて医療センターや市更相に行くんもいました。医療班テンヤワンやの一日でした。

釜ヶ崎越冬闘争小史（1）

「ひとりの仲間も死なすな！仲間のいのちを仲間の団結でまもりぬこう！」

年末年始の野宿・野たれ死攻撃から仲間のいのちをまもり、殺人行政と権力に反撃していく越冬の闘いも、21回めをむかえる。ことしは、10月の暴動決起で労働者の底力を示めしきった年だ。この力を引きついで越冬も闘いぬこう！

そのために、今年は、1回めからの越冬闘争の歴史をとらえかえし、学習していこう！（「日刊えっとう」編集部）

〈第1回越冬、70年～71年〉

万博景気が終わり、景気が落ちこみ、物価の値上がり、そして年末・年始の仕事の減少（この頃は、年末年始に仕事がなくなるというのが当たり前だった）が、日雇労働者の生活を圧迫していた。

全港湾西成分会（69年5月23日結成）が中心となって、年末・年始の就労確保・緊急保護の完全実施などを要求して、行政闘争を闘うも不発（中途挫折？）。西成分会とは別に、諸団体・個人（西成分会有志も小くむ）が、釜ヶ崎越冬対策実行委を結成、日雇労働者の医・食・住の問題に取りくむことになる。この西成分会有志が、後に釜共闘（暴力手配師追放！釜ヶ崎共闘会議）結成の有力メンバーとなるのだ。

四条ケ辻公園（花園公園）で、炊き出し、医療活動などを行う。

獲得目標は、1、仲間うちから、餓死者・凍死者・行路病死者を↖出さない。

2、共同生活を通じて、社会主義的積極性を育成する。

3、行政追求の具体的な裏付けとする。

4、外部支援の人々が、釜ヶ崎を理解する一助とする。であった。

当時は、公園で、テント設営・炊き火・炊き出しなど、ある程度自由にできていたと思われる。

しかしながら、越冬総括として「越冬村」の人員増加にともない、メンバーの負担が増し、援助する者と、受ける者との「二分化」の進行が反省点としてあげられている。

越冬前よりも、人数が増えていた。話をすると、今日飯場から帰ってきた、とのこと。

シノギから見つからないようになど、年末になって釜ヶ崎周辺にアオカン者が散っているようだ。

〔医療パトロール報告〕（12/25）

北まわり22名、南まわり61名
センター57名
合計・140名

今日、ひる3じ～5じ、反弾圧学習会にあつまろう！

〈西成市民館3階（四畳公園向かい）〉

明日27日、10日暴動公判・小池さん判決公判（あさ11じ、地裁801法廷）

あさ10じ、釜日労事務所前に集合！

本日モチ代支給日、越冬カンパお願いします。

（大阪港・あさ10じ～）

日刊ほっとう 90.12.28 第21回釜ヶ崎越冬斗争実
第4号 でんわ632-4273 釜日労 旨付

差別医療、誤診で労働者を「殺害」した センター出発

大和中央病院への抗議デモに あつまろう！

きょう、あさ8じ半、集合

みなさん！
新聞、テレビでも報道されたが今日13日、大和中央病院に対する裁判闘争をはじめることになった。
去年4月23日、日雇労働者のMさん（48）は胸痛のため大和中央病院に対する訴状を大阪地裁に提出した。
遺族の希望により仮名）は大和中央にはこばれたが、心電図が「要診療」であったのに「神経痛」と当日の紺井医師に誤診され、帰されてしまった。その結果、すでに心臓を悪くしていたMさんはますます悪化させ、翌日再び大和中央にはこばれたが、今度は「結核」と誤診され、急を要する病気であるのに入院まで一時間半も待たされた上に、容態が急変するまで心臓に対する治療を当日の高島医師は行なわず、その結果Mさんはその日心臓を破裂させてしまったのだった。
みんなもよく知っているように大和中央は釜ヶ崎で救急をよぶと5分の4は「ニヘはこばれてしまうというおなじみの病院だ。そして大和中央の医療は、日雇労働者をもうけの対象としてしかみない、差別的なズサンなものであり、数多くの仲間がムチャクチャな医療によって傷をうけ、苦しめられてきた。
アオカンしていて体の調子を悪くし救急ではこばれても、大和中央で点滴一本で追い返されて、歩いて帰ってスアオカンした、という人は数えきれないほどだ。そのため夜、野宿している体の悪い人と会っても、大和中央にはこばれることを考えると救急車をよぶのをためらわなければならない。
大和中央病院は釜ヶ崎の医療、福祉にとって重要な意味をもっている。大和中央を糾弾していく中で、釜ヶ崎の差別医療、医療福祉行政をかえていきたい。大和中央に対するウラみ、怒りを抗議デモでぶつけよう！

ゆうべ、大和中央でまたひとり労働者が十分な医療を受けられないまゝ亡くなった…

10時7分、死亡確認しました、と聞いてすぐにその人は白い布に包まれて運ばれていきました。大和中央に救急車で搬送されて15分としないうちにその労働者の頭上には線香があげられていました。救急隊員の横柄で乱暴な態度（とても病人に接しているとは思えない）にも腹がたったけど、大中に着いてから1分半しか医者が診ようとしないのは、あまりに短かすぎる。診ていても、30分前には息をしていた。彼以外にも、ひとりで亡くなった労働者は、みんな、同じくベットコンベアーにのったように変死を当日に解剖材料にしていくのか？

(90.12.27)

今日、10月暴動三斗争弾圧、小池さん、判決公判に結集しよう！

あさ11じ、大阪地裁301法廷（あさ10じ、組合事務所前に集合）

仲間たち！10月暴動の三斗いで、不当にもパクられ、起訴された4名の仲間のうち、今日は小池さんの判決がある。
小池さんは、この前の裁判でも、自分が怒ったのは、「ポリ公による不正があったからであり、自分も西成署に「職務質問」という口実で、連れこまれて、数人がかりで暴行を受けたことがあること、釜の多くの仲間たちが、同じように西成署のポリ公に差別や暴行を受けていることを、堂々と言っていた。
10月の暴動は、西成署をはじめ、ポリ公どもに痛めつけられてきた、労働者のまったく正当な怒りの表現だ。それを逆に「暴徒」だと決めつけて弾圧してパクり、自分たちのヤクザからのワイロに対しては、芳賀ひとりを処分して、トカゲの尻尾きりで居直ろうとすることなど、どうして許せるのか！
すでに判決が出された2名の仲間に対しては、ひとりに「懲役6か月、執行猶予2年」、もうひとりには、仮釈放中だったという口実で「懲役6か月」の不当な有罪が出されている。裁かれるべきは、芳賀を野放しにしていた（自分たちも同じことをしているから野放しにせざるをえない）西成署長、香味をはじめ、ポリ公どもではないか。
ポリ公の組織犯罪には目をつぶり、もみけして、労働者の当然の怒りには、有罪を宣告する、これが国家権力の姿だ！
不当判決をゆるさず、10月暴動をひきついで越冬斗争を斗いぬこう！

〔医療パト報告〕

12，26アオカンしている仲間の状況

（北まわり）	20名
（南まわり）	55名
（医療センター下）	75名
（合計）	150名

「冷たい風が強く吹いて、とても寒い夜なので、ふとんや毛布をかぶっていても、いのちを落とす危険が大きいので心配です。」（パトロール参加者）
寒さとシノギに気をつけて、野たれ死攻撃と斗っていこう！

12月はじめの天気予報では、年末年始は、あたたかくなる、と言っていましたが、きのうはものすごく寒く、厳しい年末になりそうです。
力をあわせて、冬地獄と野たれ死攻撃と斗いぬいていこう！

〔29・30日〕
越年臨時宿泊所受付（大阪市、あさ9じ～市更相で）
差別的な対応、不当な却下をゆるさず、全員入所をかちとろう！

夕方6じ～、三角公園で
たき火をたいて、殺人行政糾弾集会

よる8じ～、人民パトロール
パトの後、炊き出しを食べて
公園でたき火をかこんで野営！

きのうの大阪巻でのモチ代の、越冬カンパ十五万七千八七円ありました。ありがとう。

日刊えっとう 第5号 90.12.29
第21回釜ヶ崎越冬斗争実行委員会 でんわ(632)4273 釜日労気付

大阪市は、臨泊のしめつけ、不当却下・差別対応をするな！全員を入所させろ！

大阪市のイメガラセにまけず、臨泊受けつけに行こう！入所をかちとろう！（あさ9じ～ひる2じ、市更相 今日29日と明日30日）

仲間たち！本日と明日は、大阪市の越年対策である、臨時宿泊所の受付日だ。

われわれ越冬実は、毎年毎年仲間たちに「臨泊入所は、釜ヶ崎労働者が勝ちとった当然の権利だから、面接役人の思きせがましい態度、差別とべっ視、挑発に乗らずに、堂々と入所をかちとろう」と、よびかけている。

二三数年は、好況で仕事があるとはいっても、働けない仲間にとっては、やはり野宿せざるをえない。臨泊とは、もともとそういう困った立場にいる労働者にとってこそ、もっとも必要であるべきはずだ。しかるに、大阪市は、不当な却下をくりかえして、年とともに入所数を切りちぢめている。

一昨年来、労働者の手からい役人どもに、不当に却下され、冬空のもとに放りだされる言われはない。

本当は1月7日まで入りたいのに、3日まで値切られてしまったり、行くあてもないのに、親せきの名前を言わされて「そこへ行け」とエラそうに言われたり…。越冬実が、後から役人にそのことを追及すると、「本人がそういって納得している」と、労働者の側に責任をなすりつけてくる手口が多い。

受付にならんだ仲間は、入所を勝ちとるまでがんばってほしい。越冬実は、受付日、市更相にへばりついて、不当な却下をゆるさない斗いをします。

不当に却下された仲間は、越冬実に相談してほしい。

白手帳を大量にうばっておきながら、「白手帳をもっている者」を、臨泊に入る条件にする行政のやり方は、実に見えすいていて、悪らつだ。

現実に二三数年、臨泊への受け入れ計画数を、千百人と発表しながら、実際に入れているのは七百人台にすぎず、いつも南港はガラあきの状態だ。受付にならんだわしらを全員入れても、まだアキがある。

市民の血税を、役人のデタラメな飲み食いに使わせず、本当に必要としているところに使わせねばならない。

仲間たち！わしらの当然の権利である臨泊に、だん二入ろう！

人の痛みもわかろうとしな

今日よる6じ、三角公園にあつまろう！ 殺人行政糾弾集会→よる8じ、人民パトロール→人民パト後、炊き出し、野営

10月暴動裁判、小池さんへの不当判決をゆるさんぞ

釜の仲間のみなさんに伝えたい。

きのう、中の島の大阪地方裁判所は、西成署への反撃としてたたかわれた、10月の"釜暴動"のとき、みんなの先頭になって西成署を守っていたポリ公どもと、勇敢にたたかった釜の仲間、小池さんに対して"懲役6ヶ月（執行猶予3年）"という判決を下した。

大阪拘置所にとっつかまってた小池さんは、公判のたびに、傍聴にかけつけてきた自分と同じ釜の仲間たちに、"釜暴動"のたたかいが、どんなにわしら釜の労働者の側に道理があるのかを、大きな声で、堂々と怒りをこめて伝えてきました。

裁判所に押しかけた仲間たちは、小池さんの、パクられても、決して敵に屈しない姿を見て、いっそう勇気づけられ、越冬斗争など、一つひとつのたたかいを、敵、西成署の弾圧を打ち返す中で、しっかりとやりぬいていこう、と心にちかったものです。

二の小池さんの訴えに対して、裁判所は、「西成署の汚職はあったけれども、抗議のやり方が度を越していた」と言いたてて、小池さんの訴えには、いっさい耳をもたぬ態度だった。小だんから、西成署のポリ公どもが、わしら釜の日雇労働者にやっていることを"良し"とし、ポリ公どもをよろこばしようとするものだった。

わしら傍聴にかけつけた者たちは、いまさらのように、敵国家権力への憎しみを新たにしているところです。

仲間たち、敵の"釜暴動"に対する仕返しを、ぜったいに打ち返していこう。（10.2救援会員）

釜ヶ崎越冬小史(2)

〔第2回越冬斗争・71→72年〕

70年11月、日雇失業保険の適用が開始され、71年10月には、白手帳保持者は三千人を越す。一日760円アブレ手当てが支給されるも、有資格者は300人と約一割。就労の不安定性は、いっこうに改善されるきざしなし。

前年と同様、越冬対策実行委の手で、テント村が花園公園に設営される。（4日まで）モチつき、すもう、ソド自慢などのもよおし、支援の医者による、無料の健康診断もおこなわれた。

一方、行政との団交で、市更相のオールナイト相談業務（31日）をかちとるも、翌日いきなり閉鎖。抗議行動に出るが、民生局、市更相ともにもぬけのカラ。（以上、日刊越冬《31→4日号》より。）

俺たちの力で冬を越そうという越冬から、行政の責任を追及しようという方向が、強調されていく時期でもあった。

臨泊は一月中頃までやっていたらしいが、資料なし。

（以下次号）

〔医療パトロール報告〕

（12月27日の状況）

北まわり	21名	（救急1名→大和中央で死亡）
南まわり	64名	
センター	88名	
（合計）	173名	

〔医療相談の結果〕

受診	28名	入院	5名
市更相	23名	寮	7名
		入単	5名
		その他	7名

大和中央病院へ怒りの抗議を貫徹したぞ！

―きのう「殺人」医療糾弾デモ―

きのう9じ、センターから100人の仲間で大和中央病院への差別「殺人」医療糾弾のデモを行なった。朝センターでの集会中より、労働者から「ワシも絶対ゆるせない」という声があがるなど、大和中央に対してひどい目にあった仲間があつまり、9じデモは出発した。

大和中央病院前では、10分間、「院長はわしらにあやまれ」「救急指定をやめろ」などの怒りの抗議をした。だが大和中央は営業中であるのにシャッターを半分以上おろし、抗議に対し一切答えようとしなかった。

大和中央病院は去年4月、心臓病のため2度にわたって救急ではこばれた一人の日雇労働者を、一度めは「神経痛」、二度めは「結核」と誤診し、その結果その人は心臓を破裂させて亡くなってしまった。この件に対しては大阪地裁に訴状を提出し、来年から裁判を行うことになっている。

デモは更に「大和中央病院はいい病院」と公言する三角公園よこの街道出張所（労働署）に対しても、「大中とうるむな」「大和中央にはごぶのはやめろ」と、シュプレヒコールを行なった。最後に三角公園で、今後も怒りを結集して、公判斗争、抗議行動をつづけ、大和中央の救急指定を取り消し、病院をぶっつぶすまでたたかうことを確認して解散した。

医療相談 12/28

受診 27
市更相 25
通院 2
入院 5
入寮 1
単泊 7
その他 12

医療パト 12/28

アオカンしている仲間の状況

（北まわり）22人
（南まわり）74人
（センター）107人
（天王寺西編）38人
（四天王寺）39人
（日本橋）29人

越冬実、炊事班より

仲間のみなさん　今年も炊事班がんばってます。今夜から1日3日まで毎晩9時に、三角公園で煮込み汁とおにぎりをみんなに食べてもらう。

昼間、南港の臨泊入所受付をけられた仲間や、野宿してでも釜に残る仲間たちも集まってくる。

体力を落とさず年を越し、年明けに仕事がでてきたら働きに行けるよう少しでも栄養のあるものをつくろうと努力している。

全国の斗う仲間から、反公害で斗う人たちから、反差別で斗う団体から、米、野菜、しょう油、食用油など多くのカンパ物資が送り届けられてくる。

炊事班には学生、市民団体など各方面から「ロ」と参加してくれています。炊事班では送ってくれた人たちのあたたかい心を、みんなの腹の中に入れてもらおうと工夫して作業している。

この他にも医療相談に来た仲間や、医療パトロールにもって行くおにぎり弁当など、早朝から深夜まで休む間もなくがんばっている。

日刊えっとう　90.12.30　第6号
第21回釜ヶ崎越冬闘争実行委
釜ヶ崎日雇労働組合気付
ごんわ 632-4273

大阪市はすべての希望者を臨泊に入れろ！

―今日も朝9じ～2じ市更相で受けつけ―

みなさん！

きのうと今日の2日間、市立更生相談所で大阪市は、南港臨時宿泊所の受けつけを行う。

きのうの相談結果は、相談総数460人
- 臨泊相談 383人
  - 入所 369人
  - 却下 14人
- 生活保護相談 41人
  - 入院 14人
  - 入寮 18人
  - 却下 9人
- 生活相談 16人

というものだった。

越冬実はきのう一日、市更相を取り囲んで、受付にならんだ人ロをはげまし、相談が終わった一人一人から結果をきき取り、納得のいかない理由で却下された場合には大阪市側に抗議し、納得のいく結果が出るまでがんばった。

数字を去年と較べると、例えば去年は470人中、却下が42人、更に西の二オイがするということで100人近くが門前払いをくわされたことを考えると、入所率がぐっとあがっているのがなんといっても目をひく。これは、10月暴動にあらわれた釜ヶ崎の"怒り"に大阪市側が恐れをなしたためだ、というのが多くの意見だ。

しかし、却下側の中には「56才では若いからだめだ」「計画性がない」「二千円でなんとかしろ」などデタラメな対応が多く、数の上での変化はあっても、行政の差別性の本質にまったくかわりがない。又、去年臨泊受付で労働者に対してアルバイトの体育会系学生が暴力をふるうという事件があり、越冬実が抗議し、例えば社会福祉系の学生を雇うよう申し入れてきたが、大阪市は今年もやはり体育会系学生をガードマンとして使っていた。

アオカンを強いられる状況の中では、鉄条網をめぐらし機動隊を常駐させる臨泊といえども使わないよりは使った方がマシだ。ドヤのない仲間は大阪市の差別行政に負けず、臨泊入所、無事な年越しをめざしてがんばろう！

12/29 医療相談

相談者 38人
受診 25人
市更相 17人
- 入院 3人
- 入寮 4人
- 臨泊 10人

この日の医療相談は、お酒が入った人がとても多かった。相談者38人なのに受診が25人になっているのはそのため。寒さの中、少しでも暖をとるためお酒が入ってしまうのもわかるけれど病院や役所は、少しでも酒が入っていると門前払いしてしまう。ややこしいなあ。

日刊えっとう '90.12.31 第7号
第21回釜ヶ崎越冬斗争
実行委（632）4273
釜日労気付

本日 まだ臨泊に入れるぞ！

朝9じ～12じの間に医療センター前に集まれ

29日、30日と南港越年臨時宿泊所（臨泊）が大阪市立更生相談所（市更相）で行なわれた。

676人が臨泊を希望したが、27人が却下され649人が入ることができた。

当局としては、この数年の間で一番良いが、相談者が減っているのが心配だ。差別的なイヤガラセの受付、二重の鉄条網と機動隊が常駐した臨泊、そして臨時職員の子供の年ぐらいの体育会系学生による横暴など、〝二度と行きたくない〟気持ちになるのがわかるが、もう一度考えて欲しい！

臨泊は前回の暴動（20～30年前）によって克ち取った物であり、当然の権利として多くが入所して、ワシらによる、ワシらの臨泊にして行こう。

当然の権利として獲得していかないと、2～3年後にはまた景気・大野績者時代にひどいシッペ返しを食らう！

本日は医療センターへの受診者のみがまだ臨泊に入れる。

いし身体の調子が悪い仲間、高令者は朝9じから12じの間に医療センターに集まれ！

沖縄でも、12月に入って、北風（沖縄ではミーニシという）がふき、日雇労働者のさむざむとしたフトコロを直撃しています。

沖縄における越冬闘争は、公園や市場の中等を中心に、人パトを行ない、野宿している仲間との交流・命を防衛し、やりかえしていけるじんみを目指し、日々やり抜こうとしています。

寄せ場における業者斗争も、最賃8千円を9千円にする斗いとして、今秋から91年の春斗へ向け取り組んでいます。

我々、沖日労は、全協の斗いに連帯し、寄せ場の中、日雇労働者の怒りを沖縄における さまざまな斗いの場において、ぶつけ、斗い抜いてきました。

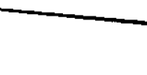
10月の釜ヶ崎の暴動決起は、多くの沖縄人にとっても、深い共感と勇気を与えています。

沖日労も、釜ヶ崎の暴動を〝他人言〟とすることなく、自らのものとし、それに続く斗いをやりきらねばならないと思います。

今越冬斗争へは、昨年に続き、沖縄から5人の仲間が参加しています。（結ぶ会、沖日労）我々は、釜日労を始めとして、全ての（うらへ）

連帯アピール
沖縄日雇労働組合

90～91釜ヶ崎越冬闘争に沖日労から連帯のアピールを送ります。



本日 三角公園 「沖縄のうたと踊り」に集まろう

きのうから、三角公園の斗いに突入！

よる6じ～、三角公園に結集し、人民パトを斗おう！

31日よる6じ、沖縄のうたとおどり

仲間たち！きのうから、越冬斗争集中期の斗いに入った。

1月4日あさまで、よる6じから集会や催しをやり、8じから人民パトロールをおこない、その後、炊き出しを食べて、たき火をかこんで野営する。

人民パトロールは、釜の仲間自身が、アオカンをしいられている仲間のいのちをまもる斗いであり、ミノギや差別しゅうげきをゆるさない斗いだ。

きのうは地区内を、二百名の仲間で、西成署ポリ公、機動隊の妨害をうちやぶり、圧倒してやりぬいた。

1月1日には、あさ10じからモチつき天会だ。

2日には、ひる1じから、三角公園に結集し、斗いぬこう！

釜ヶ崎越冬小史（3）

〔'73年越冬（72→73年）〕

この年の5月、鈴木組斗争がきっかけとなり、3日つづきの暴動がおこる。そして6月1日、暴力手配師追放釜ヶ崎共斗会議が結成され、暴力手配師、悪質「業者」、ヤクザへの大反撃が開始される。反撃の内容は、三こでは小れないが、センター、三角公園、労働現場を、大衆的な力で制圧した。

11月14日、関西建設斗争での、33名逮捕から、権力の弾圧が強化され、越冬対策実行委が、テント村（12/25～1/4、花園公園）を設営した直後の26日、水崎町派出所爆破の件で、赤軍のメンバーが逮捕される。

同日、センターで爆破事件が起こり、後にデッチ上げで3名が起訴されている。

'73年越冬の特徴は、一時金要求斗争である。釜共斗の斗いの成果を背景に、建設業者に対し、〝日雇労働者の生き血を吸って、肥え太った収奪分の一定の返却＝越冬斗争資金の拠出要求〟（「新左翼」72年12月25日号より）とする、カンパ活動である。

一方、行政斗争としては、手帳持ち労働者のみの年末一時金支給（モチ代）糾弾」という スローガンがあげられている。

当時のモチ代は、12月29、30日に支給され、（72年は三千二百円）〝文字通り年末一時金〟という性格を持っていたのだ。

また、日刊えっとう（25～4日）には、地下タビ訪中記」が連載され、〝社会主義中国〟の紹介がされている。（以下、次号）

〔医療パトロール〕
12,29 報告

北まわり	21人
南まわり	41人
センター	70人
公園	90人
山王	19人
	241人

臨泊受けつけがあったのに、アオカンする仲間は増えている。

〔警備班より〕

われわれ警備班は、医療センター前の〝拠点〟、集中期の三角公園の〝拠点〟を、文字通り体をはって、だんこ防衛していく決意です。（警備班の仲間の声は、後日紹介します。）

日刊えっとう 1991.1.1 第21回越冬闘争実行委員会 第8号
釜ヶ崎日雇労働組合 気付 でんわ 632-4273

越冬をはじめてから、すでに死者3人。「仲間から一人の死者も出すな！」

きのう、12月27日夜「勝利号（バス）」のすぐうしろで具合の悪くなったところをみつけられ、救急で大和中央病院にはこばれたが着いて2分後に亡くなった労働者に対して、越冬実行委員会として祭壇を勝利号うしろに設け、焼香、黙祷を行なった。この人はその日の朝、越冬実行委員会医療班にこうなった際のけがの治療をうけ、医療相談で病院に行くよう誘われたが「まだいい」ということで断り、あと一日フトンで寝ていたが、夜になって危険な状態になっているところをみつけられたのだった。

12月25日に越冬闘争を開始してから、越冬実行委員会が確めたかぎりですでに3人の労働者が亡くなっている。しかしいずれの人の名前もまだ不明で、27日亡くなった人も病院、警察で「身元不明」として処理されている。「仲間から一人の死者も出すな」は越冬闘争の原点だが、現実にはすぐそばで仲間が死んでいっている。

きのうまで3日間行なわれた南港臨時宿泊所の受付の総計は、相談833人、うち臨泊希望722人で入所695人、却下27人だった。去年とくらべ、入所率は目にみえてあがったが、これは間違いなく10月暴動の成果だろう。しかし一方では相談者数は去年より百人近く減っている。しかしこれは決して生活に困っている人が減ったためではなく、日常の市更相の差別的対応によってドンドン相談に来る気をなくさせてきた結果である。野宿を強いられながら「臨泊受付には行きたくない」という人が数多いのがその証拠となっている。又受付の市側の態度も「今年は入れてやるが来年からはだめだ」といった無茶なものであり、結局大阪市が「殺人行政」であることに依然かわりはない。

釜の中では体が弱くなったり仕事がなくなったりといったそれだけの理由で野宿に追いやられ死に至る、という現実はかわらない。今もたくさんの人が差別行政、差別医療の中で一歩一歩行路死へと追いつめられている。今越冬の間にも亡くなっていった人たちのことを心にとめながら、これからの越冬期間をたたかっていきたいと思う。

12.31 医療相談結果

受診 70
市更相 51 ─ 入院 8 / 入寮 3 / 臨泊 46

きょうも医療相談があるよ！あさ9じ～11じ半

1月1日の予定

ひる1じ～よる7じ半、三角公園
のど自慢大会、バンド演奏、夜類放出

「ここ（釜ヶ崎）に住んでて、よかった！」（10月2日の暴動から）……「わてらと釜ヶ崎」（前編）

暴動2日目の10月3日、私たちも、その場にいたくて、釜日労の軒下で救護をしました。娘と息子を連れ合いにまかせ、目いっぱいの緊張と興奮をおさえ、チャリンコでかけつけました。

シーツでつくった救護のハチマキをしめ、シートの上に毛布を敷き、バケツに血を洗い流すための水を用意しました。次から次へと㊙にやられ、運ばれてくる労働者や、若い10代たち。

㊙の植の水平打ちで、目の下をパックリ割られたり、投げた石がとどかずに頭から血を流している人の血を、何とか止め、くいこんだガラス片を抜きとったりと、野戦病院のようでした。救急車を何度となく呼んで、病院へ運ばれる人も多く、本当にひどいケガが目立ちました。

青年たちの中には、10代のツッパリたちがいて、ガラスの破片が手のひらにくいこんでいました。それを抜いている側で、心配顔の連れの少年が「だいじょうぶですか？」と、声をかけています。「救急車よぼうか？」「ガラスがとれていないかもしれへんは？」「大丈夫です。自分で行けますから」「救急車ならお金いりますから、大丈夫ですいらへんよ」「お金いりますから、大丈夫です。ありがとうございました」と、彼が私たちにとてもやさしく言葉を返してくれるのが、何か印象的です。

最前線にはいないけれど、とても一体感がもてました。（以下、次号）

〔医療パト（12,30）〕

北まわり	14人
南まわり	63人
センター	61人
三角公園	115人
（合計）	253人
山王	22人
（救急搬送）	2人

人民パト2日目

寄せ屋は明日から4日まで休み。残されたバタ屋さんは、どうするのだろう。

（オモテから）

釜ヶ崎越冬闘争を闘う仲間たちとの連帯・交流を求め、また、多くのウチナーンチの日雇いの仲間との団結を強めて、わずかの間ですが、釜ヶ崎の地でともに闘い、これからの共同の闘争の前進を、かちとっていきたいと思います。

ともに団結してガンバロー。

〔医療相談＝12月30日〕

相談者	19人
受診者	13人
市更相へ	11人
入院	4人
貸金	1人
臨泊	6人
通院	2人

今日は日曜ということで、病院が休みと思ったのか、相談者が少なかった。

医療センターでの診察の後、市更相へ相談に行くのだが、きのう、今日と市更相は、業務を2じで打ち切っていた。

臨泊受付以外の生活相談に来る人も多いと思うが、2じで業務を打ち切る市更相の態度は、おかしい。

新世界へ250名で、機動隊の弾圧・妨害をうちやぶってやりぬいた。ポリ公の妨害をうちやぶって、シンノギをゆるさず、仲間のいのちをまもろう！

日刊えっとう 第9号 91.1.2 第21回釜ケ崎越冬闘争実行委員会 でんわ(632)4273 釜日労

臨泊の収容所体制をゆるさんぞ！

今日、臨泊面会に行こう！

ひる2じ、三角公園出発

今日、団結モチつき大会

あさ10じ～、三角公園
よる6じ～、コンサート

これが南港臨泊の実態だ！…（臨泊に入った仲間の報告）

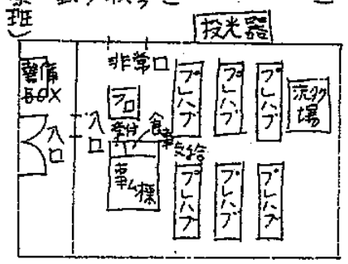
南港臨泊…その場所たるや、毎年、一ース自販機2台、五百～六百人の人間に対し、これである。あまつさえ、公衆電話がたった2台、外からはかけられぬ、面会もできず、外からの連絡は、いっさいかなわないというのだ。こちらから外出するにしても、二重の受付でチェックされる。上、指紋（紋鑑）までとられるとい。また、およそ人権もヘッタクれもない収容所なのだ。

一こんな人権無視、目翌べっ視の臨泊で、多くの仲間が年越しをすることになる。

――――――――

今日は、モチつき天会の後、つきたてのモチをもって、南港臨泊に収容されている仲間に、げきれい行動に行く。多くの仲間の参加を！（医療班）

（その他）
とん2、しき1、毛布2）
②外出2回チェック（警備室で紋鑑
②入浴―1じ～8じ、
②結湯自由―コーヒーなし、お茶
②面会なし―外部からの連絡は不可
②警備―不定期（4人グループ）
学生、民生局



釜ケ崎、ここに住んでいてよかった！
（10月2日の暴動から）②「わてらと釜日」

暴動3日目、救護を終えて、みんなで、まだくすぶっている霞町駅へ行きました。わあ～、解放区やんか!!　何を、そこは、とても静かでシーンとしていて、落ちついた静寂さがあり、心がなごんでいきました。

ゆっくり歩いている人や、立たずんで話している人、みんなが、とてもゆったりしているようでした。

釜ケ崎越冬小史（4）

第4回越冬（73→74年）〔前編〕

石油ショックと慢性的インフレが、労働者の生活を圧迫、私自身も、昼勤も夜勤も五千円という超ケタオチ飯場に行ったりしたものです。

この回から、越冬対策ではなく、越冬闘争として位置づけられ、

- 一人が皆のために、皆が一人のために。
- 病人、老人の利益を文一に
- 黙って野たれ死ぬな！生きて奴らにやりかえせ！

のスローガンのもと、「越冬闘実行委」が結成され、11月12日には、労働部、7ヶ所ほどあるバリケードから火がでて、暗闇の中で、まるでかがり火のようでした。

そこにいるすべての人が、連帯しています。まるで越冬の夜の三角公園のような、おだやかな解放区でした。西成署の不正に対し、火炎ビンが飛びかい、その側で、私らは救護をして、他の人たちは、防衛や救対やらして走りまわりながら、声をかけ合って、気持ちを合わせてやれました。

このことが、毎日生活していく上で、力と自信になっています。

- 仕事をよこせ！（当時、山谷では、すでに特別公共事業がでている）
- 無料宿泊所を完備せよ！
- 釜から行ける救急病院をふやせ！

12月17日、団交拒否に抗議。府庁前でハンスト突入。

そして、29日に花園公園に設営されたテント村を出げき拠点として、行政班による、無料宿泊所での改善闘争が始まる。

民生局に要求書を提出。

〔警備班の仲間のアピール〕

※「自分自身のためにも、仲間のためにがんばって、殺人行政を打ちくだこう！」

※「大阪市の福祉行政のいいかげんさには、怒りを感じて参加しました」

※「人間に対して　平等に扱ってほしい」

※「今回初めて参加しましたが、人の命の尊さというものがわかりました」

※「仲間の熱い団結で越年・越冬を斗い抜きます。」

※「自分も　いつしんどくなるかわからないが、アオカンせざるをえない仲間の為に頑張るのはやりがいがあります。」

警備班は昼と夜が逆の毎日「夜勤」体制ですが、みんな仲よく団結した力で最后まで斗い抜きます。

〔医療パトロール〕（12,31）

北まわり	20名
南まわり	38名
医療センター	160名
三角公園	51名
	289名
（山王	20名）

30日、人民パトは闇の中250名でナンバへ。闇にぬれながらがんばった仲間たちご苦労さんでした。

日刊えっとう '91. 1. 3 第21回釜ヶ崎越冬闘争
第10号 実行委 でんわ(632)4273
釜ヶ崎日雇労働者組合気付

大阪市民生局は面会に来たのだから

臨時宿泊所の中に入れろ！

みなさん！ きのうは南港臨時宿泊所に入っているみんなに面会しに、昼に三角公園でついたばかりのモチをみやげに持って、バス「勝利号」で約80人のあつまりでおしかけた。南港臨泊は、きのうの「日刊えっとう」の報告に詳しいように、人里はなれた場所にフェンスと鉄条網で囲んだプレハブの建物で、そこから外出するのにも警備室と入口受付とで2回チェックをしなければならないという「収容所」みたいな施設だ。きのうの面会は、そんなひどい待遇の中で年始を迎えなければならないみんなをはげましにいこうというものだった。

ところが、臨泊について、みんなで面会を求めたが、大阪市民生局の役人たちは門を閉めたままで我々を無視し、一言も口をきこうとしなかった。こうしたやり方に対し、「面会に来たのだから臨泊に入れろ、面会をさせろ」と抗議し、怒って何人かは門を越えて臨泊の敷地へ自力で入り、何人かは投石をはじめた。問答無用の市側の態度に対する、この当然の反応に対して何と！大阪市は警察、機動隊を導入して、面会、抗議活動を妨害してきたのだった。しかも機動隊はもみあいの中で労働者をひきずり込み、殴るけるのリンチをし、他の何人かにも暴行をはたらいた。まったく、面会に来ただけでなんでこんな思いをしなくてはならないんだろう。結局、市側は一人の面会も許さず、「この状態では話はできません」と繰り返しいうだけだった。せっかく持ってきたモチをわたすこともできなかった。ただ、臨泊の外からマイクではげましたとき、たくさんの人が臨泊の部屋から出てきて、「がんばれよー」と声をかけてくれたのが唯一の明るい話題だった。

(12/26~30)医療相談中間報告

医療相談の中間報告をします。12月26日～30日までの5日間に相談に来た人は計116人です。平均年齢は53歳で、世にいう働きざかりです。しかし、この年齢は釜ヶ崎ではまさに高齢者です。いままで10年15年と働いてきて、身体がガタガタになっている証拠です。それを裏付けるように、疾病別第一位は、骨格系（腰痛、骨折）で労災など仕事から来るものです。第2位は消化器系（肝臓、胃かいよう など）、第3位は成人病といわれる高血圧症、動脈硬化などです。そして第4位は、日本では過去の病気といわれる肺結核、約10%です。116人中10人という高率で、すべて入院という重症でした。

この結果からも、釜ヶ崎で取り組むべき課題があきらかです。

釜ヶ崎越冬小史(5) 第4回越冬(73~74)(後)

藤沢会館（信太山）では下請、管理していた救世軍による食事前の賛美歌強制をやめさせたし、市立労働会館（森の宮）では、「一週間でたった8本のタバコ配給」に対する怒りから要求斗争がおこり、団結、組織化をかちとる中で、一日一箱の支給になった。そして、1月4日で締め切られる事に対し各宿泊所の仲間が「仕事を出せ、さもなくば宿泊所を延長せよ」の要求で一致し、民生局との団交で全五ヶ所施設の10日までの延長を確約させた。

更に1月5日には宿泊所、テント村、釜の仲間が、府庁に対し「仕事よこせ、特別公共事業を起せ」の大デモ（300名）を貫徹、当時の"革新府政"への異議申し立てという重大な側面を持つこの行政斗争は大きな社会的反響をもたらしたのである。最後にこの時大活躍した行政班の有志がのちに、釜日労を結成することをつけ加えておく。

他方、1月3日労働者がテント村から大和中央病院に運ばれたがまともに診てもらえずおいかえされた事に抗議、団交をかちとり、事務局長から自己批判書を取る —（日刊えっとう1月4日号医療班報告）

きのうの医療班の面会報告

行った病院は阪奈、阪和、堀和、アビコ、田中（美原）、伊藤。この越冬期間中に入院した仲間を中心に、ケタオチ病院に面会に行った。堀和病院では動けない患者に面会に行ったが、一階でしか面会できないからという理不尽な理由で面会させなかった。福祉の日用品貰はまだ出ていない上に、病院も一銭も貸そうとしない！ 医療相談は一日で終わるが、入院生活は何ヶ月、何年にもなる。がんばって体をなおして下さい。

人民パトロール4日目

—天王寺、四天王寺へ—

きのうの人民パトロール4日目は天王寺駅、四天王寺を300人近いあつまりでパトロールした。四天王寺は数年前、少年による、労働者襲撃事件がおこっており、今も40人程の人が野宿を強いられている。今年は去年と較べ、境内のあちこちで野宿者排除のバリケードをつくっているのに驚かされた。パトロールでは越冬闘争へのよびかけを野宿している人、市民へビラで訴え、機動隊、私服らによる妨害をはねのけ最後まで元気にやりぬいた。

医療相談1/1

受診 18人 入院 2人

1.2.3日は市更相が休みなので、医療センターから直接入院。しかし入寮はできない。市更相、開け！

医療パトロール1/1

北17人 南71人

医療センター前 96人

三角公園 140人

計 324人

今晩はぬくい。昼間は小雨が降っていたが夜ロはやんでいた。

越冬は5日で9日目！

きょうも医療相談があるよ！あさ9じ～11じはん

日刊えっとう　1990.1.4　第11号
第21回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会
釜ヶ崎日雇労働組合 気付
でんわ 632-4273

痛い！機動隊に守られた私服ポリ公による性暴力発言を許さんぞ！

仲間たち。昨夜、私服ポリ公による性暴力発言に対し、多くの仲間の怒りが集中し、西成署前で抗議行動が闘われた。

事実はこうだ！

・2人パトロール（梅田）を仲間の団結で闘っている隊列に、多数の制服・私服ポリ公が張りつき、人民パトロールに対する妨害行動に出ていた。

梅田・大阪駅構内では、ヤミ手配が横行し、JR当局はケタオチ賃金、半ダコ飯場に仲間を送りこんでいくヤクザを野放しにする一方、野宿者排除に権力を導入している。越冬闘争実行委員会は、多くの仲間が参加（10月暴動に参加したかったが、釜ヶ崎がどこにあるのか判らず、来れなかった）という若者も駅で人民パトを見て、隊列に加わって来ていた！）

野宿する仲間への呼びかけを行なおうと共に、大阪市の差別行政の実態を暴露していった。

人民パトの隊列には、多数私服ポリ公が紛れて入りこもうとしてきたが、たびたび、仲間の団結の力でつまみ出されていた。

私服ポリ公の格好たるや、ねじり鉢巻き、毛糸帽子等、人民パト隊と見まごう姿で図々しく、隠し五として入りこんでいた。

その私服の一団の中、野球帽にマスク、青いウインドブレーカー（そでに二本線）の、ポリ公が、人民パト隊の女性達に対し、「ブス！」「ブタ！」「公衆便所！」「やらせてんねやろ！」とニヤニヤしながら言いたい放題侮辱し、もてあそぶことによって、ストレスを女に向けて発散していた。

並んでいた二十代の私服ポリ公も、それにならって、「公衆便所！」

おまえら、一体どういうつもりで言うてんねん！

人民パト隊から、「こいつら、やっこいつや！」と抗議の声が上がった途端、駅の石段から、仲間を蹴り飛ばしたのだ。

その現場は、多くの仲間がしっかりと見ており、写真にもおさめている！

野球帽にマスクの男は、舌を出し、更に挑発してきたが、二十代の若い方のポリ公は、

今日、対市抗議デモ・府労働部抗議行動に起ち上がれ！
（おれまいり）あさ7じセンター集会、8じ出発→8じ半三角公園出発

今日、越冬映画会「5月夢の国」（80年・韓国光州）

韓国の自主上映で40万人がみた！ よるの6じ・三角公園

今から11年前、1980年の五月、韓国の光州（クワンジュ）市で、軍部独裁に対し、民主化を求め、市民が起ちあがった。

先頭にたっていた学生や若者たちに、空挺隊員が銃剣で、ようしゃなくおそいかかる。

あまりにも残虐なおこないに怒った市民たちもたちあがり、全南（チョンナム）道庁を占領、市民デモは市内をうめつくした。

しかし、5月27日、道庁を死守していた市民軍の全滅によって、2千人にのぼる犠牲者を出した斗いは、日雇労働者や小商人など、社会の下積みで生きる人が多く最後まで残り、銃弾にたおれていった。

この映画の物語は、そんな市民軍のひとりの青年が、恐怖のあまり、光州から逃げ出したところからはじまる。

越冬アピール（釜ヶ崎連帯会議）

越年越冬斗争は、釜ヶ崎労働者にとって、アブレ地獄とアオカン野たれ死がもっとも集中する時期です。と同時に、斗う側にとっては人民パト、医療活動をはじめとする越冬斗争の真価がもっとも試される時期でもあります。

12月27日夜のアオカン労働者の死は、非常に残念で、くやしさと自らの運動の弱さを痛感せずにはいられません。このくやしさ、怒りがゆさぶられ、怒りに転化し、殺人行政糾弾！大中糾弾！の原動力にしていかなければならないと考えています。

この一年を、冬の一時期の斗いに限定することなしに、目的意識的に、釜ヶ崎解放ーいっさいの差別、分断支配を焼きつくす強固な思想と団結を創出すべく、だん一斗いぬく決意です。

10月暴動ーそして大中糾弾斗争に示された、釜ヶ崎ー日雇労働者の資本と階級矛盾総体を焼きつくさずにはおれない。噴火山のような怒りの深さ、激しさこそ、越冬斗争の原動力であり、寄せ場解放のけん引力に他なりません。

釜ヶ崎ー日雇労働者の資本と階級矛盾総体を焼きつくさずにはおれない。噴火山のような怒りの深さ、激しさこそ、越冬斗争の原動力であり、寄せ場解放のけん引力に他なりません。

山谷越冬斗争への派遣を要に、山谷斗争と固く連帯し、階級深部の怒りと国際主義で、釜ヶ崎労働者をはじめとする被差別大衆、被抑圧民族との階級的団結をかけて、第21回越冬斗争を、最後まで担いぬいていきたいと思います。

ともに最後までガンバりましょう。

［医療パト報告］（1/2）

北まわり	16人
南まわり	81人
センター	97人
三角公園	187人
（救急1）	381人

［医療相談（1/2）］

相談	27
受診	22　入院0

人民パトロールは、梅田へ250名で。私服の若いポリがパトロール隊に10人近くまぎれこんでおり、挑発した。

ポリ公の介入をゆるさず、人民パトをやりぬこう！

今日、ソフトボール大会へ行こう。 あさ9じ、医療センター前に集合！

手を広げて顔を隠し、写真をとられまいとして、私服の波に守られていった。

性暴力発言を浴びせられた女たちは、人民パトから戻ってすぐ、その晩のうちにビラを作り、梅田人民パトでの事実と、仲間に訴えた。

昨夜、1・3人民パトロール弾圧に配置された私服ポリ公に対し、我々は、性暴力ポリ公を見つけ出し、仲間たちの前にそっぱずり出すために、面通しを行なっていった。

こちらの目的を知るや、ポリ公どもは、あわてて西成署にそっぱ上げようとしたが、前夜の若い方のポリ公をすぐさま発見、「こいつや！」と、仲間の声が上がった。

性暴力ポリ公は、おびえた様子で、別のポリ公から渡された赤いスポーツタオルを持って、顔を隠し、機動隊の楯に守られながら、西成署内に逃げこんでいったのだ。

「私服ポリ公を出せ！」

「昨日の行為について本人が出て来て説明せよ！」

この正当な要求に対し、府警・西成署は、機動隊の血塗られた楯で、我々を排除しようとし、三角公園から西成署前の抗議行動に合流してくる仲間との分断・指揮棒で弾圧してきた。

第七機動隊は、面割りされるのを恐れて次々と前線を交換し、楯の水平打ち、指揮棒を用いて、仲間の頭部、顔面、メガネ、腹部を直撃してきたのだ！

梅田人民パトでの事実を知らず、職務命令に従って、特定した仲間に指揮棒を振り降ろしたおまえ！ あんたら機動隊も、性暴力ポリ公と一体だ！

この越冬中にも、釜の仲間の無念の死があった。

越冬闘争に参加している仲間、女たちは、越冬闘争（仲間の団結したカ）のその中でも奪われていく生命を、性暴力、性支配によって、いつも殺されつづけている自らの痛み、悲しみを通して実感する。

生きたい、と

女は、たえず「からかい」の対象として、「なぐさみ」の対象として、軽んじられている。

「ブス！」「4ビ！」（可愛いいね。でも同じことだ。女は外見、ということだ。）

「公衆便所！」

「おっさんにやらせてんねやろ～」と、欲求不満解消の道具にされている。

おまえの感覚で女を見るな！

なめんじゃねえ！

× × × ×

ポリ公の性暴力発言だったから、直接的に怒りをぶつけられた。

× × × ×

多くの仲間が、女を排除し「やらせてんねやろ」とされた闘う仲間を侮蔑した性暴力発言に対して怒り、一緒に闘ったこと、

――ここから、日常の死の淵からの復権が生まれていく。

南港臨王への面会、2日目

釜ヶ崎の仲間の貴さん。きのう(1/3)は1/2に引き続き、南港臨王に入所している仲間にげきれいすべく面会に行って来ました。

しかし許せないことに、大阪市民生局の役人どもは、1/2の怒りの抗議に恐れをなしたのか、門を閉ざしたまま監視小屋に引きこもり、私達の面会要求に対して無視し続けました。しかも臨王のアルバイト学生は、私達の抗議に対して「あんたらに会わす必要ない。」「遊びのために、ここで金もうけてるだけや。帰っとけ！」と言い捨て、後は監視小屋でヘラヘラ笑っているだけでした。

このアルバイト学生のふざけ切った態度は日雇労働者差別、殺人行政＝大阪市の差別とまったく同じです。たまたま外出から戻った労働者に中の様子をたずねると「寒い」「人間扱いしてへん」というものでした。

私達は、このふざけ切った市民生局及びアルバイト学生を絶対許す訳にはいきません。

日雇労働者のかく離、収用、抹殺攻撃に対してだんこ怒りの声を叩きつけていこう。

◦救急隊員vs病院（どちらも最悪）

昨日朝8じ45分頃、センター近くで一人の労働者が血を吐いて越冬実に救急車を呼んでくれるように頼んだ。彼は三日前に大和中央病院を自己退院したばかりで、それ以来アオカンをしていたそうである。

その救急隊員の対応が最悪である。到着するなり立ったまま、その寝ている労働者に対して救急隊員は「あんた、この間大和中央を自己退院したんやないか。なおす気のないヤツまで乗っけて行かなあかんのか！」とか、私達に「この人は働いてへん、こっちは夜どおし働いてるんや。この人が働いている証拠はあるんか。」などと発言した。

更に許せないのは、病院着いた後のやりとりでの救急隊員の発言である。一つ一つを全てここでのべないが、次のようなことをくり返し言った。

「釜共は救急車呼ぶだけで簡単でいいわ。それは親切やけどな。あんたら救急車呼んだ後、最後までこの人の面倒を見るんか。そこら辺を考えてから呼んでくれ。」「わしらは酔っぱらいの為に働いてるんやない！」「救急車呼んだんや、福祉の金とかでなく、自分らで十割負担してくれ。」等と言って帰った。

杏林病院の事務員の私達に対する発言も許せないものがある。「もし、福祉がおりなかったら、釜共でこの人の面倒見てくれるのか。こっちかてお金を払ってもらわへんかったら困る。」「この人の福祉の金たのんだら、私らが市から怒られる。」等と暴言をはいたあと、事務所で同僚と「何でも福祉で面倒見てくれるという生き方が甘えている。」と声高にしゃべっているのである。総じて言えるのは、救急隊員も杏林の事務員も、「福祉」で見てもらわなければならない労働者を差別しているんだ。

1/3 医療相談はか

相談 21人
受診 19人
全員通院
入院入院なし
医療パト報告は明日

日刊えっとう 91.1.5 第12号
第21回釜ケ崎越冬斗争実行委員会
☎(632)4273 釜日労 気付

きのう、対市・対府抗議デモをやりぬいたぞ！

野宿・野たれ死攻げきと斗い、越冬斗争をやりぬこう！

ポリ公の女性差別発言をぜったいに許さんぞ！

仲間たち！集中期（三角公園野宿←どうやら女性たち）の斗いのしめくくりに、きのう、大阪市と府労働部に対して、抗議デモを斗いぬいた。150名の仲間で、市に対しては、臨泊の不当な面会拒否、救急隊の差別対応、越年対策のしめつけを糾弾し、府労働部に対しては、自手帳のしめつけ、高齢者排除、悪質「業者」ののさばらしを糾弾した、とくに、仲間たちの、だんことした追及によって、抗議文の受けとりさえ拒否していた府労働部に受けとらせたのは、大きな成果だ。

さらに、1月2日人民パトでの、ポリ公による女性差別発言に対して、一昨日の西成署抗議行動につづいて、越冬実として、そして釜の仲間も怒り、斗った。仲間たち、さらにポリ公の差別発言と斗いながら「ポリ公だから」斗うというだけでなく、女性差別をゆるさず、共に斗いぬこう！

抗議申し入れ書

大阪市の釜ケ崎労働者に対する差別・殺人行政に対し、ここに強く抗議する。

大阪市は年間数百名の仲間が野垂れ死する実態に対し、何らの抜本的対策をたてようとしないばかりか、反対に警察の言いなりになって切り捨て、排除、管理を強め保安処分の片棒をかついでいる。

越年対策として始めた臨時宿泊所においては、二重の鉄条網で囲み、出入りに二重のチェックをし、機動隊を常駐させ、更に屈強な体育系学生を高額で雇って警備をさせて入所者を抑圧し、釜ケ崎労働者に対する差別を煽っている。

前年度の臨時宿泊所の受付時には、そのアルバイト学生によって釜ケ崎労働者への暴力事件が発生した。それは、大阪市の釜ケ崎に対する蔑視を類似したものであり、かつ雇い主としての責任もある筈だが、今だに謝罪もなく、今年度も同じ大学より雇っている。昨日(1/3)も、我々が臨時宿泊所に面会に行った際にその学生アルバイトが前面に立ち「金もうけの為にやっているだけで、オマエらは干ライだ」と我々の面会申し入れに対して一切取り合おうとしない暴挙を行なった。

また、臨時宿泊所には面会室も設置されておらず、何もない南港の寒い路上でしか面会をさせようとしかしない。1/2には、釜ケ崎に残った多くの仲間がつきたてのモチを持って面会に行ったにもかかわらず、一切中に入れようとはせず、面会もさせようとはしなかった。そして、それに対する正当な抗議に対して機動隊を呼び我々を排除するという、警察主導の施策を露呈した。

以上のような越年対策の締め付け、差別・イヤがらせによって、今も尚、多くの釜ケ崎労働者が暗闇の中野宿を強られ、命の危険にさらされている。この年末にも、判っているだけでも3名の仲間が野垂れ死んでいる。この責任を取れ。

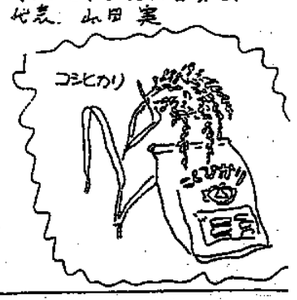
大阪市は、天王寺公園有料化による釜ケ崎労働者の排除・環境美化運動を名目にした排除をしつつ、民生福祉行政としては何らの対策をもとうとしていない。管理や警備排除の為には予算を使うが、民生福祉行政には全く使おうとはしない。特に、釜ケ崎差別に立脚した福祉施策の切り捨て・殺人行政に対し、ここに強く抗議する。

1991.1.4

第21回釜ケ崎越冬斗争実行委員会
代表 山田 実

大阪市長殿

大阪市民生局長殿



日刊えっとう 91.1.6 第13号
第21回釜ヶ崎越冬斗争実行委員会
☎(632)4273 釜日労

集中期の斗いを引きつぎ、越冬斗争をやりぬこう！(1)

〔越冬実情宣班〕

仲間のみなさん。

年もあけ、去年の12月25日から突入した、21回めの越年越冬斗争も、あと5日間を残すのみとなった。

今年の越冬斗争は、10月暴動決起をひきついで、野宿をしいられる高齢、病弱、「障害」者の仲間のいのちを、差別・野たれ死攻げきからまもりながら、「寄せ場の主人公は、わしら労働者だ！」と宣言する斗いとして斗いぬいている。

この越冬の斗いを通して、残る5日間の斗い、さらに91春斗から年間を通した斗いの課題も鮮明になってきた。

ひとつは、日雇労働者を「廃棄処分」にする、差別・殺人医療の中心である大和中央病院に対する斗いである。去年4月に、誤診、差別診療によって、仲間を死なせた事件に対し、仲間の家族がたち上がって裁判をおこし、12月28日には、100名の仲間で糾弾デモを斗った。大和中央でやられてきた仲間は多い。12月27日にも、ひとりの仲間が、まともな診療もされずに死なされた。救急隊（市消防局）による、杏林病院（大中グループ）と結たくした、差別対応に対する糾弾と結びつけて、だんこ大中糾弾斗争を、差別・殺人医療をつきくずす斗いとしてやりぬこう！

ふたつには、臨泊収容所との斗いだ。たしかに、表面上は、ことしは、臨泊の受付で却下された仲間も少なく、ほとんどの面接に行った仲間が、臨泊に入ることができた。しかし、年末年始、釜ヶ崎の中だけでも、二百人をこえる仲間が野宿をしいられた。例年の、市役人の差別対応、イヤガラセが、面接に行く仲間を減らせたのだ。

さらに、1月2日には、モチつきのモチをもって、バス「勝利号」で、臨泊に面会に行った仲間たちに対して、機動隊を前面に出して弾圧し、入所している仲間が「釜から来た仲間に会いたい」と申し出ても、面会させなかったのだ。鉄じょう網をはり、機動隊を常駐させ、面会させない、臨泊の収容所こそ、大阪市の殺人行政の姿を口コツにあらわすものだ。（つづく）

1/8(火) 沖縄の芝居とビデオ上映会

よる6じ、市民館

（寄せ場と沖縄を結ぶ沖縄労働者の会、主催）

1/13(日) 山岡さん虐殺五年弾劾／佐藤さん虐殺弾劾／日雇全協総決起集会

正午～山谷・玉姫公園

越冬まつりを終えて

91年もいよいよ明け、我々労働者にとって、寒さが一番きびしく、精神的にも体力的にも弱ってくる時である。その力べを打ち破るべきの斗いとして、この1/1から1/3にかけ、三角公園を基盤にした越冬まつりをやりぬいたのだ。

まず初日は(1/1)、昼12時から我々はこの地（釜ヶ崎）に根をおろし、生きてるゾーと力強く大声でふるさと三唐ブとばかりなノド自慢大会をやり、その間合を支援で来てくれたバンドの仲間達による生演奏の音の波に乗って体をあたため、交流を深めた。夜は又、山形出身の仲間である斎藤新一さんと、沖縄出身のナガハマ君のライブコンサートを我々の力強いパワーで盛りあげ、パトへと出発した。

そして2日目(1/2)は、朝8じより炊事班の力強い協力を得てもチフキ大会の準備をやり、10じすぎから我々の団結を深めようと力ケ声も勇ましくつきはじめた。それと同時に例年の如く、斗いを盛り上げてくれる京都のバンドグループである「だいなしバンド」がモチつきと併用して生演奏でがんばってくれた。

釜ヶ崎越冬小史(6)

第5回越冬（74～75）

74年、3日愛隣センター爆破でっち上げ弾圧を頂点とする権力の釜共つぶしで運動は停滞と混迷をむかえていた。昨年来続く不況の中から行政班有志で、10月「仕事要求斗争準備会」が結成され、"仕事よこせ"は越冬斗争へと引き継がれていった。この年宿泊所斗争は大きくもり上る。（最後の宿泊所斗争となるのだが）藤沢会館（信太山）長柄寮（天満）を始めとして九ヒと斗争委員会が結成される。そして仕事を出させるまで居すわって斗う方針が確認された。仲間の追求に対し、役人はいなおり、そしてトンコ、権力の導入を繰り返した。1月4日、宿泊所・テント村の仲間が合流、市庁へのデモ、市長室占拠で反撃。更には、越冬をやらない西成介会への抗議、社会党大阪府本部（当時革新府政の与党）に押しかけ、社会党の裏切り左糾弾、"革新"の本性を暴露していった。

1月11日、居すわる仲間に立ちのき命令が出され、天満では5名の仲間が強制排除、2名が逮捕、信太山では10数名が強制排除され、"最後の宿泊所斗争"が終る。この間テント村では、54人医療センターへ行って、12人が結核だったという驚くべき事実が報告されている。

1月12日、この日テント村はいったん閉じられた。しかし、釈放された行政班の仲間がテント村を再建、約40日間の第2次越冬斗争を斗うことになる。

医療パト1/4けっか

野宿しいる仲間のぜつ況

北 19　南 39
センター 68　三角公園 50
山王 11　計 187人

（北）寄せ屋（店）が今日から閉いたため、センター前のフトンしきに来ていたバタ屋さんも、北コースの自介のリヤカーのところへもどってきていた。今日はほんまにさむい。

医療相談 1/4

相談者 36人
受診者 33人
入院 5人
入寮 7人

日刊えっとう 91.1.7 第14号
第21回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会
☎(632)4273 釜日労 気付

集中期の闘いを引きつぎ、越冬闘争をやりぬこう！

きのうの「日刊えっとう」では、大和中央病院と臨泊収容所の闘いについて述べた。

大中との闘い、臨泊＝大阪市の殺人行政との闘いとともに大切な闘いは、悪質「業者」と府労働部の殺人労働行政との闘いだ。

12月、釜日労は、大阪駅手配の半タコ飯場であるタマキ建設の労災金ネコババ事件に対して労働争議を闘い、謝罪させて駅手配をやめさせた。この闘いは、高齢、病弱、「障害」者の仲間たちが、ケタオチ単価で半タコでも、駅手配から仕事につかざるをえなくされていることに対する闘いだし、だから越冬闘争の中のたいせつな闘いだった。

さらに、1月4日の対市抗議デモの後、府労働部に対して抗議行動を闘い、申し入れ書を受けとらせた。労働部とあり一ん職安は、白手帳をしめつけ、この数年間で一万人もの仲間が、白手帳をうばわれている。その結果、白手帳をうばわれた高齢、病弱、「障害」者の仲間は、ケタオチの仕事にも、日のうちたくさん行かなければならなくされ、労災や病気でカラダをガタガタにされ、野宿、野たれ死をしいられている。

こうした結果（大中、市ふくめて）が、12月27日の仲間の死だし、こうした、日雇いに対する差別と抑圧に対する仲間の怒りの爆発が、10日暴動の闘いだ。

そして、もうひとつは、差別と抑圧に対する仲間の怒りを、暴力支配でおさえつけ、屈ぶくさせようとするのが、ポリ公とヤクザだ。ポリ公は、仲間のいのちを、シブギや差別しゅうげきや野たれ死からまもる、人民パトロールを、たえず妨害し、2日には女性差別を平然とおこない、3日には、居直って機動隊でリンチをしてきた。ポリ公に対して、10月暴動をひきついで闘いぬこう！

（つづく）（越冬実情宣班）

（越冬闘争スケジュール）

1月7、8日　机出し医療相談
あさ8じ半～　医療センター前
8日　ダチ4じ～
救急行政への抗議申し入れ行動
ダチ6じ～　市民館
沖縄の芝居とビデオ上映会
10日　よる8じ～最後のフトンこき
11日　あさ　越冬闘争を撤収

ポリ公の女性差別発言に対し、梅田で抗議の情宣！

きのう、1月7日の梅田での人民パトで、私服のポリ公が、女性に対しエゲつない差別発言をした。そこで、3日に、そのポリ公を見つけて追及しようとしたところ、西成署前で機動隊をつかって暴行した。ことに抗議して、30名で梅チカで力べ新聞をはって、三千枚のビラをまいた。

ビラは、1時間でなくなり、力べ新聞は黒山の人だかりだった。

（くわしい内容は「またか、西成署！」ビラで。）

わてらは"支援"にきとるんじゃないでえ

もう、釜ヶ崎の越冬にきて、一週間になる。その間色いろなことがあって、何から書いていいんだかわからんのだけど、書く。

私らは10月の釜ヶ崎暴動にきてた連中で、それからちょくちょく釜に顔をだして、働いたり、泊まったりしてきた。あの暴動は私らにとってもの凄く重要だった。マスコミは私らを「10代の若者」というのでくくって、石を投げたり、火をつけたり、「略奪」したことをテレビ等でコーゲキしたけど、それは私らにとってはもの凄くうれしいことだった。釜ヶ崎は「労働者の街」で、私らはあそこにいてはいけないようにマスコミは権力と一体となってコーゲキした。けれど釜は働いている人、いない人、野宿している人、女の人、子供、「障害」者等色々な人達がいる、あったかい街だ。実して「労働者」だけが存在する街ではないと思う。色々な人達が自分のしんどさと向きあいながら生きている。そんな風に感じる。

私らが石を投げたんは私らのこの社会に対する問いかけだった。それは、もやもやとしたはっきりしないものだった。私らはあの石の向こうに何を見ていたんだろうと思う？あんだけ釜山の仲間が、今は暴動の火を、心の中にくすぶり続けながら、毎日をしんどく生きている。

その内の何人かは今権力にタイホされて、今また2重3重のリンチをうけている。やりきれん。

おとうい人民パトロールにいって「わっしょい!!わっしょい!!」と叫んだ。あれは、私の心の火が燃えているかけ声だ。

オッちゃんらは、私に、「なんでこんなとこくるんや？こんなとここんでいい！」とか、きびしい質問をあびせてくる。それは、オッちゃんの生き様のしんどさが私にひびいてくるからだ。

みんなしんどくって、私もしんどくって、「しんどい」ということが、私らをあの暴動にかりたてた。私はオッちゃんらに寄りそってゆきたい。だから越冬にくるんは、「支援」じゃない。大きな声はりあげて、「まだまだ、やれるでえ」といっていきたい。みんなしんどかったら「しんどい」といってゆきたい。そんなふうに私らは思っている。（1/1）

――ゆかいな仲間たち――ちるう

医療相談1/5

相談者 20人
受診 15人
市更相 10人
入院 2人
自福館一泊 7人
貸金 1人

・そろそろ契約仕事（飯場）が出ているためか相談者は少なかった。市更相でも正月で週末のせいか、一時しのぎの措置が目立った。

医療パト1/5

野宿している仲間の状況

山王 10人
北（新今宮駅から） 27人
南（〃） 56人
センター 77人　計170人

1/3のけっか

北 15人　南 65人
山王 17人　四天王寺 47人
日本橋 50人　天王寺新場 39人

日刊えっとう 1991.1.8 第15号
第21回釜ヶ崎越冬闘争実行委
釜ヶ崎日雇労働組合気付
でんわ 632-4273

血を吐いている人にむかって「この人は働いてへん」

「わしらは酔っぱらいのために働いてるんやない」としゃべる最悪の救急隊を糾弾しよう！

（三角公園の北ふるさと寮のとなり）

きょう夕方4じ、海道出張所で抗議行動

1月3日朝、センター近くで一人の労働者が血を吐いておれており、越冬実に救急車をよぶように頼んだ。ところが来た救急隊員の態度が最悪だった。 寒るなり、寝ている労働者に対して立ったまま、「行くのか、行かんのか」（病人に対してなんという横柄な態度だ）、「あんたこの間大和中央を自己退院したんやないか、なおす気のないヤツまで乗っけていかなあかんのか」（自己退院するのは大和中央がガマンできないほどひどい病院だからだと思う）といい、更に越冬実の人間に「この人は働いてへん」（血を吐いて倒れている人が働けるわけがない。大体年末年始に仕事なんてないよ）、「こっちは夜どおし働いてるんや」（救急隊は夜どおし働くように交代勤務でやっているのだ。なにをえらそうに言ってるんだろう）などと発言した。越冬実の方からは、「そんな態度ではだれでも病院に行く気をなくす」と抗議したが、救急隊は救急車の中でも労働者に対していろいろイヤミをいい、更に西林記念病院についたあとも、「わしらは酔っぱらいのために働いてるんやない」（その人は酒のニオイが少ししか酒が入ってようがケガや病気はするし、救急隊はそれをはこぶのが当然だ）、「あんたら救急車呼んだ後、最後までこの人の面倒みるんか。そこら辺を考えてから呼んでくれ」（越冬実は救急車を呼んだあと、見舞いに行きあとあとのことまで相談するようにしている。つきそい、荷物をとりにいく、など。救急隊の方こそ、搬んだらそれっきりではないのか）などと繰り返した。

結局その人は入院したが、こんな救急隊に会ったら二度と救急車を呼ぶ気がなくなるのではないか。釜ヶ崎では体の調子が悪くなると、仕事を失い、野宿を強いられ、更に福祉切り捨て、悪徳病院によって一層体を悪くするという状況が続いている。救急隊の発言はそれについて無理解、無神経なものではないのか。しかも救急隊のこうした発言はこの日だけではない。糾弾し、救急隊をかえていこう！

医療相談 1/7 けっか

受診者	18人
市更相	7人
入院	1人
入寮	1人
自彊館	1人
貸金	2人
却下	2人

'90～91 釜ヶ崎越冬ゼミ・感想

釜ヶ崎という町を、私にとってどんな町かひとことでいうならば、人生の生き様とか生き方を、体で感じる町だと思う。まだまだ経験も少なく若い私が、人生という言葉を軽々しく使うべきでないのでないかと思っている。しかし、ここで、私が一番考えていたのは、自分についてだったし、最後にいきついて問われるのは自分だったなと思う。ゼミナールに参加していた人たち、おっちゃんたちと釜ヶ崎で働く人たち、やくざ、警察、子どもたち。ここで出会った人たちが、みんな同じ人間で同じ社会で生きていくのだと思うと本当に不思議な気がする。しかし、だからこそ人間の生き方のようなものを、体で感じつづけないではいられなかった。そして私も地面に足をつけて生きていくのだと思わざるをえなかった。釜ヶ崎で、何よりも今の私にせまってきたのは結局自分だった、というのが言葉に表すと小さいけれど、私の気持ちに一番近いのかもしれない。

弱いよりは強い方がいい。できないよりはできる方がいい。もたないよりはたくさんもっている方がいい。それが当たり前の社会で、私に一番求められていることは、そんなすべてのものから自由になっていくことなんだと強く感じる。どこに住んでるとか、お金をどのくらいもっているとか、はねつけようとしても憧れてみたいし、どんなんともそんな自由な自で接していけたらと思う。生きていくのに大切なものって、強いとか、たくさんのものをもっているとか、そんなことじゃないんだと、人の見方も社会の見方も物の見方も、私の中で一つ一つ変革していった。私なりの見方が変わっていく度、今の時代に私を置いて一歩ずつ歩けているような気がする。

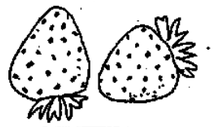
私は幼児教育の勉強をしていて、社会の中の様々なことに疑問を感じれば感じるほど、大きな不安と、子どもとかかわる大切さと責任を強く感じる。子どもと接するときに、子どもがありのままの社会にぶつかり、自由に感じ、そのときに子どもたちが世の中や親の意見、先生の意見に左右されずに、自分の頭で悩み考えていけるように、子どもとかかわっていけたらと思うし、日本の偏った側面で生活するのでなく、子どもなりにうけとめていける環境を用意しながら、私自身がもっともっと広く幼児教育の分野にかぎらず、たくさんのことに目をむけていこうと思っている。釜ヶ崎で自分のことをみつめられたことをいかして、たくさんの人の中で助けあっておぎないあって共に生きていくことに、一つ一つつなげていきたい。ここで会ったたくさんの人に感謝します。またいつか会いたいです。

（越冬ゼミは、釜ヶ崎キリスト教協友会が主催するゼミナール（ワークショップ）。越冬の支援・施設の援助、釜ヶ崎の諸問題の学習・討議を行う。参加者の感想・全文）

医療パトロール 1/6 けっか

野宿している仲間の状況（新今宮駅から）

北	26人
南	64人
センター	86人
計	176人



今日、沖縄の芝居とビデオ上映会

（寄せ場と沖縄を結ぶ沖縄労働者の会・主催）

よる6じ～9じ、西成市民館3かい（四角公園の向かい）

仲間たち！今日、寄せ場と沖縄を結ぶ会主催の、沖縄の芝居と、首里の寄せ場のビデオの上映会が、おこなわれる。

12月31日には、三角公園で「沖縄島うたデービル」をやってくれた。

沖日労と結ぶ会の仲間たちは、12月30日から、釜ヶ崎の越冬斗争に参加し、ともに斗っている。

（1/8ず15号）

釜ヶ崎越冬小史（第5回越冬（74→75）その2）

1月12日、いったん閉じられたテント村は、行政班有志によって、15日に再建された。

年があけても、景気は一向に回復のきざしを見せず、センターに求人バスが一台も来ない日がつづく。テント村を基地として、文字通り、生きるための斗いが、続けられた。

16日「仕事をよこせ」「職安は仕事を紹介せよ！」大阪府に抗議デモ。黒田知事に団交要求。21日、公園局の「公園明けわたし要求」を無視して、居すわって斗うことに決まる。

釜ヶ崎労働者の切りすて、殺人行政糾弾！連日センターへの「仕事よこせ」のデモ。梅田地下での情宣・カンパ活動がつづく。しかし、長いテント生活から、老人、病弱者が続々と倒れていく。

だが「ベッドがない、施設は満パイだ」市更相や病院は情容しゃなく、テントの住人を追い返した。「病人を病院に入れろ」は、斗争のもっとひとつのスローガンとなった。

2月14日、テント村の結核患者が中心となり、「結核患者の会」が結成され、保健所・民生局などと交渉をつづけ、ついには市更相を通さず、入院をかちとることに成功している。

2月24日、市による「強制収用」の通告。バリケードを築き、臨戦体制に入る。

25日、七百名の機動隊による〝テント村の捜索〟という名の弾圧。4名が逮捕。

26日、千百名の機動隊導入。前日の〝捜索〟によって武器をうばわれるも、体制を建て直して迎えうつ。

バリケード内には、赤ヘルをかぶった80名の労働者が立てこもり、〝くそ爆弾〟を投げて徹底抗戦。多くの釜の労働者が見まもる中、14名が逮捕。テント村は強制撤去され、40日間にもおよぶ第2次越冬斗争は終わる。

（なお、この40日間、日刊越冬につづく形で「テント虫」1/18～2/26が発行されている）

医療パト報告

（1/7）

北まわり	18人
南まわり	59人
センター	120人
	197人

臨泊が今日閉められたことで、きのうよりも、アオカンせざるをえない仲間がふえている。

日刊えっとう 1991.1.9. 第16号
第21回釜ヶ崎越冬闘争実行委
釜ヶ崎日雇労働組合気付
でんわ 632-4273

暴力的な言動をかさねる救急隊員は出てきて話しあいに応じろ！

――きのうの海道出張所・抗議行動について――

みなさん、きのう夕方4じすぎから、西成消防の海道出張所に対して抗議行動を行なった。海道の消防隊員は、血を吐いて倒れている労働者に対し、「この人は働いてへん」「わしらは酔っぱらいのために働いてるんやない」「救急を呼んだら福祉にせずに自分で十割払え」といった無茶苦茶な発言をするなど、釜ヶ崎の日雇労働に対して無理解、無神経な態度をとり続けており、それに対する抗議だった。

海道出張所におしかけると、当日の責任者一人が出てきて話をした。越冬実「本人たちを出して話をさせてほしい」海道「私が部下にきいたところ、そういうことをいったことはない、という ことだ。」越冬実「こちらのメンバー数人がきいているのだから、信じられない。」

そこへ救急車が一台帰ってが、そこには「この人は働いてへん」などといった救急隊員がいた。越冬実「あの、今帰ってきた隊員が本人だ。呼んで話をさせてほしい！」海道「それはダメです。上に相談しなければそういうことはできません。」越冬実「本人たちの前で本人に、本当にそういうことをいったのかいわなかったのか確認したい」海道「私の一存では決められません、上に相談しておきます。」越冬実「今呼べばいいことではないか」海道「とにかくお話はうけたまわって、善処します。」越冬実「2年前にも救急隊員の問題発言について話しあいを行い、救急隊は態度の改善を約束したが、全くかわっていないではないか。善処というなら具体的な形で示してほしい」「上へ相談というが、あなたがここの責任者なら、私たちの抗議に対して自分はこう思う、こうしたい、ということをいってほしい」海道「上と相談して後ほど連絡します。」越冬実「いつまでか」海道「一週間です」。約一時間のこういったやりとりののち、消防署への「抗議申し入れ書」を読みあげ、手わたした。

海道側ののらりくらりの責任回避の若帯はひどいものだが、こちらの要求は当人出席の上での事実確認会であり、それが実現するまで、何度でも海道出張所へおしかける予定だ。救急隊員は、出てきて話しあいに応じろ！

医療相談

1/8ばっか

受診	18人
市更相	17人
入院	4人
入寮	6人
その他	1人

日刊えっとう　1991.1.10　第17号
第21回釜ヶ崎越冬闘争実
釜ヶ崎日雇労働組合気付
でんわ. 632-4273

府警本部長・椿原がやめた！西成署長・香味もやめろ！10月暴動の力で斗いぬこう！

仲間たち！一昨日、府警本部長の椿原が辞職した。形式上は「勇退」になっているが、大阪府警の相次ぐ汚職・腐敗に、やめざるをえなかったのだ。

椿原は、一昨年に、警察庁警務局長から、大阪府警を「立てなおす」ために転任し、次は警視総監が約束されていたメッである。

ところが、ポリの腐敗はすさまじく、椿原は、メクザから数千万円のワイロをまき上げ、誰の目にもワイ口警官であることが明らかになりそうだった、西成署の芳賀をバクリ「さらし首」にして「処分」することで、労働者と差別され、抑圧されている仲間のポリ公への怒りを、はぐらかそうとした。

しかし、日頃ポリ公どもに差別され、暴行されている仲間の怒りが爆発し、ポリ公に怒りをもつ青少年の仲間たちを合流させて、ち日間にわたる「市街戦」を斗いぬき、ポリ公は鎮圧することができなかった。

しかも、西淀川署ポリの「ピストルかくし」が、実は借金をかえすために、強盗する目的だったことが、あかるみになり、椿原は、いられなくなった。10月暴動に対する、機動隊と私服ポリ一万人を投げ入れた、三日、り、手が、いかに自分たちの不正に対する居直りだった、ということも、さらにあきらかになってしまったのだ。

これが、椿原「勇退」の真相だ。

ガタガタになった府警に、仲間の決起が追いうちをかけて、府警本部長の首をとばせたのだ。

しかし、芳賀ワイ口事件にあらわれた、ポリ公のメクザとのゆ着、メクザからのワイ口まきあげの首謀者である、西成署長・香味の首は、まだつながっている。

椿原につづいて、香味もやめろ！

1/13 山岡さん虐殺5ヶ年弾劾／佐藤さん虐殺弾劾／金町解体／日雇全協決起集会
正午・山谷・玉姫公園
1/12 よる8じ、医療センター下のバス「勝利号」⇒1/14 早朝、釜に着

今日で、医療センター下でのフトンと夜の炊きだしは、終わります。

〔医療相談報告〕（1/10）
受診 4
通院 3
市更相 1→三徒寮
医療相談の規模を縮少したため、相談者が減りました。今日も、あさ9じ～9じ半で受付します。

釜ヶ崎、わたしらの街じゃあ！〔医療パトロール班（わたしら釜ヶ崎）〕

10年前！いま5年生の長男が、日払いアパートで生まれた。せまい四畳半の部屋で、つれあいと何度もナベにお湯をわかし、産湯をつかわせたのを思い出す。

道ですれちがう労働者に「背中におんぶされていた子が、こんなに大きくなったんが、大事に育てんとのう」と、声をかけられる。（1/9号）

日雇いのつれあいと、二人で暮らしてやっていくのに、しんどかった10数年。必死だった。それを、遠くや近くから、ずーっと見守ってくれているような、人肌のあったかさが、わたしらの釜ヶ崎にはある。

わたしらパトロール班は、よる10じ、ふとんをしいている医療センター前から出発する。救急箱・懐中電灯・ふとんをつんだリヤカーを引いて、「支援」の人・キリスト教関係の人、わたしらが、気持ちをひとつにして歩きはじめる。二の越冬は、若い仲間がいっしょで、心身とも助けられている。

ときどき、その後ろを、うしろめたいのか、二・三人の私服が、見えかくれしながら尾行してくる。

○日、ダ、ボールをつんだ台車のヨコで、うすいダンボールに「ボロぎれ」のように、横だわっていた、おっちゃんがいた。上に何もかけていない。数人が声をかけても動かない。「三角公園で、たき火燃やして、雑炊もあるで……」というと、ゆっくりとこっちをむいて、ゴボゴボとセキこんだ、弱わりきっている、みんなでかかえてリヤカーにのせ、台車も押してゆくから……」と言うと、うん、うんとうなずいた。

越冬三年、たったの17日間、あと数日で終わるけど、あんなして野宿している人は、一年中「いのち」ギリギリのところで斗っているんだ。その人の生きざまに身をよせ、仲間といっしょに、国や社会やみんなを糾弾するぞ。

路上死3名「いのち」は、売り渡さん!!

1/13 日雇全協決起集会に結集しよう！

1/12、よる8じ、医療センター下、バス「勝利号」に集合。
⇓
1/13、正午へ、山谷・玉姫公園で集会・デモ
⇓
1/14、早朝、釜に着。

集会名称「山岡さん虐殺5ヶ年弾劾！佐藤さん虐殺弾劾！
金町解体！日雇全協総決起集会」

〔医療パトロール〕（1/8）

野宿している仲間	
北まわり	22
南まわり	72
センター	89
計	183

医療センター下でのフトンは、1月10日よるをやって、終わります。
元気な仲間は、仕事に行こう！体の弱い仲間、病気・ケガの仲間は、医療相談（あさ9じ～9じ半に、フトン小屋で）に来て、入院・入寮を、からとろう！

週刊えっとう　1991.1.28 第21回釜ヶ崎越冬闘争実行委
第1号　TEL. 632-9273 釜日労気付

1月24日"大和中央病院の差別・殺人医療を糾弾する実行委"発足。

今日10じからの大和中央病院殺人医療裁判。第一回公判（大阪地裁712号法廷）にあつまろう！

9じ釜日労前集合

つづいて大和中央病院を法延にひきずり出す裁判が今日から始まる。

大和中央病院はおととし4月23日、心臓病でドヤから救急車はこばれたMさん（還暦の希望により仮名）を「神経痛」と誤診し、心臓に悪い痛み止めをわたし、返してしまった。翌日、再び動けないほどの痛みで大和中央にはこばれたが、今度は「結核」と誤診され、一時間も待たされ、結局Mさんは心臓を破裂させて亡くなったのだった。

大和中央病院でひどいめにあった仲間は数多い。骨折なのにたたのうち身といわれた、手をぬったがメチャクチャなぬい方で、結局他の病院でぬいなおした、などなど。しかし病院の中の医療行為ということで、なかなか証拠をつかむことができなかった。しかし今回は、2日目に救急でMさんと一緒に大和中央へ行ったMさんの友人の証言と熱意によって、大和中央との事実確認会、還暦への説得、そして裁判と、ここまでこぎつけることができた。

大和中央は釜で救急車をよぶとち介の4はここに来てしまうという病院だ。大和中央は救急車で患者がくると「もうけがきた」という具合で、日雇労働者をはなから金もうけの対象としてしかみていないし、たとえズサンな医療で労働者を死においやっても大して問題にならないので、それをいいことに、労働者をくいものにして金もうけを続けてきた。

この裁判は、大和中央のそうしたやり方は許さない、大和中央はわれわれを人間としてきちんと対応しろ、と訴えるものだ。きょうからはじまるはじめての大和中央への裁判へ行って、大和中央への抗議の声をあげていこう！

（9じ釜日労前集合、交通費はいりません。）

越冬後段	越冬実
1/18 医療相談	1/22 医療パト
受診 16人	北 45人
市更相 6人	南 63人
入院 3人	計 108人
入寮 1人	

第21回越冬闘争は、2月末まで。

毎週火曜夜の医療パトロールを行います。

"日刊えっとう"も"週刊えっとう"として2月末まで発行します。

○2月末までの釜ヶ崎キリスト教協友会の夜まわり

月曜 ふるさとの家	金曜 喜望の家
水曜 暁光会	土曜 こどもの里
木曜 旅路の里	（それぞれの出発場所）

○釜ヶ崎越冬小史（8）

75～76 第6回越冬

この年、慢性不況、物価、ドヤ代の値上りが労働者への生活を圧迫する。政府発表で失業者100万人。11月末にはやくも越冬寮が結成される。29日、突入集会。

12月1日、市長、府知事に要求書提出（○特別公共事業を起せ　○公共事業に釜の労働者をやとえ　○結核患者を入院させろ！など）

4日、花園公園使用不許可の通知がくる

10日、不許可を無視し、公園でたき火、炊き出し（弁当）開始　以後、"テント村づくり三角同盟"（大阪市、西成署、大池商事＝下請け）との攻防が続く。西成署は、たき火を消し、監視カメラを取りつけ、テントがはれずアオカンしている労働者を24時間監視し、抗議するものはかたっぱしから連行した。大池商事は市の要請、西成署の協力を得て何度も、たき火・ふとんを持ち去った。こうして、殺人行政は安ロと労働者を殺した。19日、公園で一名すい弱死、20日焼身自殺、21日には3名の"野たれ死に"が確認されている。（つづく）

○越冬まつりを終えて

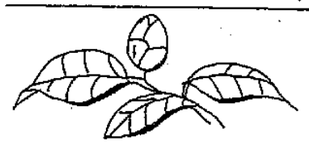
（死体解剖）

一月一日。午後より恒例ののど自慢大会。正月初日という事で、さすがにみんなのんびりした顔をしている。思い思いの歌が流れる。ふるさとの歌、今はやっている歌など…。ともかく一日はゆったりとした感じで過ぎ去る。

一月二日。そろそろみんなのエンジンがかかり出すころだろうか？　今日は団結もちつき大会の日。あーにく小雨の降る中でのもちつき大会だったが、エンジンのかかり出したみんなにとっては、天気の具合などは全く関係がない。あっという間にもちがつかれていく。とにもかくにもみんなのものすごい熱気。気がつくと一つの間にか雨はやんでいた。午後からはバンド演奏。バンド演奏に合わせておどり出す人、手拍子をたたく人、反応はまちまちだったが、一日にくらべてみんなはだいぶエンジンがかかってきた様だった。

一月三日。午前中はソフトボール大会。今回のソフトボール大会は、釜ヶ崎で生活する若い人達をまじえて行なわれたわけだが、なかなか盛り上がったと思う。とにかく釜ヶ崎にはこういった遊びの場が少ない。できたらこれからも通年的に、釜ヶ崎のみんなが真の意味で遊べる場と時間が作れたらと思う。午後からは三角公園で「5月夢の国、80年、韓国、北州」という題の映画が上映された。これからますますふえてくる韓国人労働者といかにして我々日本人労働者がかかわっていくのかということも含めて上映されたわけだが、みんなの感想はどうだったのだろう。とにかく新しい年は開始したばかりだし、今年がどんな年になるのか予想もつかないが、もっとより多くの人々に、釜ヶ崎のみんなの持っている怒り、悲しみ、そしてやさしさが伝わっていければと思う。

医療パトロール1/9

野宿している仲間のようす

北まわり	21人	計 172人
南まわり	58人	
山王方面	23人	
センター	70人